



東日本大震災から5年が経ちました。

今年も3月10日、11日に南三陸町歌津地区にて活動を行いました。この二日間で100名以上のボランティアさんが来てくれました。10日はボランティアさんと地元の漁師さんと一緒にワカメの作業を行い、夕方にはキャンドルナイトを行いました。このキャンドルナイトでは地元の高校生で当団体の学生リーダーでもあるカイちゃんによる「語り部」を行い、当時の悲惨な様子、辛い記憶、人の温かさが語られ、沢山の人が涙をながしていました。カイちゃんは津波により母親を亡くしており、震災4年目辺りまでは本人自身まだ気持ちの整理がついてなく、ここ1年で少しずつではありますが話せるようになってきました。カイちゃんや他の子どもメンバーの成長、立ち直りは私たちスタッフもとてもうれしいことです。

そして震災から5年目の3月11日は、地元の方との行方不明者の捜索活動と法要を行いました。捜索活動では、ダイバーによる海中捜索で地元の学校の名前入りのジャージや骨、陸地では車のナンバープレート、クレジットカード、プリクラ等様々なものを見つけることができました。プリクラは津波により家を流された学生のものでした。流されてしまってから5年が経ったとは思えないほど綺麗な状態のプリクラを手渡した瞬間、その子はとても喜んでいました。

午後からの法要は厳粛な雰囲気の中で執り行いました。船上から震災により亡くなられた方、行方不明となった方々に参加者全員で黙祷を捧げました。

震災から5年経ち、節目と言われていますが未だに家族や友達が見つかっていない方には節目というもの存在しないのではないのでしょうか。

私たちもこれからまだまだ活動を続けていきます。これからも応援をよろしくお願ひします。



## ～地元高校生の声～

5年目を迎えた今年の3.11は忘れられない日となりました。11日の午前中、私は母の亡くなった場所である志津川の慈恵園に行っていて、午前中のツナガリの活動には参加できなかったのですが、ダイバーの皆さんが視界が悪く水が冷たい中どんなに小さな物であってもお骨や遺留品を見つけ、家族の帰りを待つ人に届けたいという強い想いで水中捜索をしてくださったり、陸上班は砂浜に打ち上げられた瓦礫を一つ一つ確認して探してくれました。その結果沢山の遺留品、お骨、思い出のプリクラが見つかったと聞き、本当に驚いたし、ありがとうという気持ちが溢れてきました。午後からお念仏と法要に参加し黙祷を捧げました。終わった後に感想を聞くと、皆が皆ほんとに優しく強い想いをもって、この方々と出逢えたことに感謝をしました。実際に一緒にいた時間は少なかったけど私は全員が大好きで、なにより嬉しかったのが困ったとき力になるからと言って抱きしめてくれたことがほんとうにほんとうに嬉しくて、母親だと思ってくれていいと言ってくれた方、頼れる兄貴になってやると言ってくれた方、そして相談などの姉になると言ってくれた方がいて、5年目の3.11は風が冷たい日でしたが、温かい気持ちになりました。

あの震災でたくさん傷つけられた分、人の温かさを知り、有難さに気づきました。被災地の復興はまだですが、着実に一步一步あゆんでると思えた瞬間でした。震災後、私は感謝について伝えてきました。食べ物や水、家族がいることは当たり前ではなく、いなくなってから気づくのは遅いです。照れくさくても、いつも感謝の気持ちは伝えてほしいと私はいつも話しています。

(つながり学生リーダー  
岩石 桂惟)

